

このプログラムは、Vorbis プレイヤーでリモート リソースの場所を入力する作業を補助するためのツールです。Web ブラウザなど他のアプリケーションで表示されている URI の文字列を取り込んで、メモ帳(LifeDrive では“Memos”)に書き込みます。書き込んだ文字列は、Vorbis プレイヤーの[リモート リソースの場所]画面のメモ帳レコード選択で取り込むことができます。

なお、他のアプリケーションで表示されている文字列すべてを取り込める訳ではありません。ラベルなどを使わずに、アプリケーションで直接画面に文字を表示しているものなどは取り込めません。

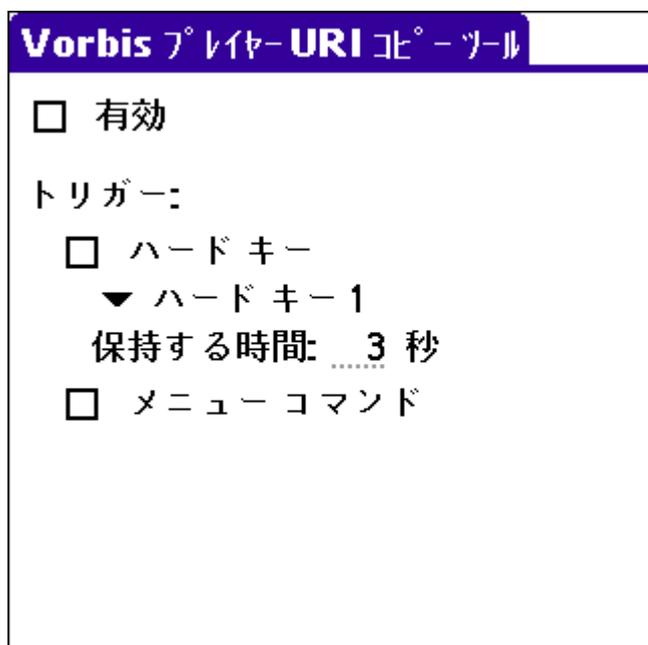
使用方法

他のアプリケーションの実行中に、それを終了させることなく起動して、対象のアプリケーションの画面に表示されている文字列をコピーします。

起動の仕方は、ハード キーを一定時間押す方法と、メニュー コマンド ツールバーから起動する方法の二種類が使えます。

設定

VorbisURI をラウンチャから普通に起動すると、以下のような画面が表示されます。



この画面で、コピー機能を起動するトリガーの種類と、トリガーの有効/無効の切り替えを設定します。

[有効]をチェックすると、起動トリガーを有効にします。チェックを外すと、以降の項目の設定の如何によらず起動トリガーが無効になります。

[ハード キー]をチェックすると、ハード キーによる起動を有効にします。その下のキー選択の項目で選択したキーを、[保持する時間]で指定した時間押し続けると、コピー機能が起動します。使用するキーはハード キー 1 ~ ハード キー 4 が選択可能です。

ハード キーによる起動を有効にしない場合は、ハード キー押下時の動作は、システムで設定された通常の動作になります。

[メニュー コマンド]をチェックすると、メニュー コマンド ツールバーからの起動を有効にします。

コピー機能の起動

● ハード キーによる起動

設定画面での設定に従って、指定したキーを指定した時間押し続けます。

● メニュー コマンド ツールバーからの起動

メニュー コマンド ツールバーを表示させると“URI”というアイコンが現れるので、それをタップします。



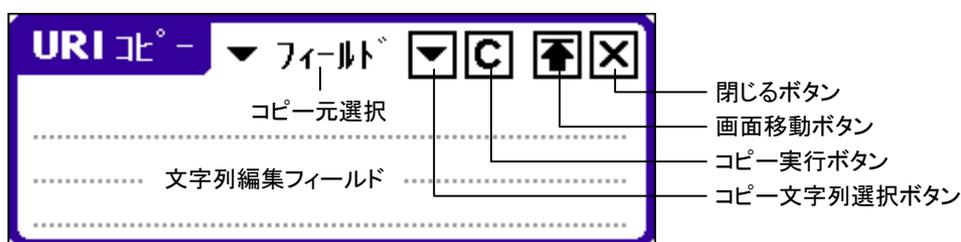
コピーの実行

コピー機能の画面は、機能の性質上なるべく画面を小さくすることを優先しました。そのため、表示や動作が標準的でなく判りにくくなっているところもありますが、ご了承ください。

まず、コピーしたい文字列を表示するアプリケーションを起動して、目的の画面を表示しておきます。(コピーしたい文字列が画面に表示されていなくても、その文字列が画面上にある非表示状態の構成要素に設定されていれば、コピーできる場合もあります。)

クリップボード経由で文字列をコピーしたい場合は、目的の文字列をクリップボードにコピーしておきます。(コピー機能を起動した状態では、対象のアプリケーションを操作することができないため)

コピー機能を起動すると、以下のような画面が表示されます。



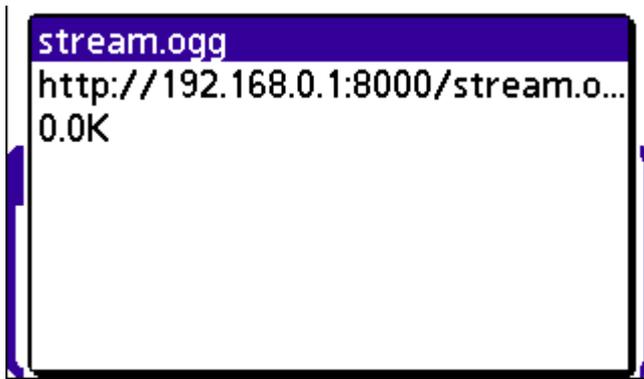
コピー元選択で、文字列のコピー元の種類を選択します。



コピー元として以下のものが使用できます。

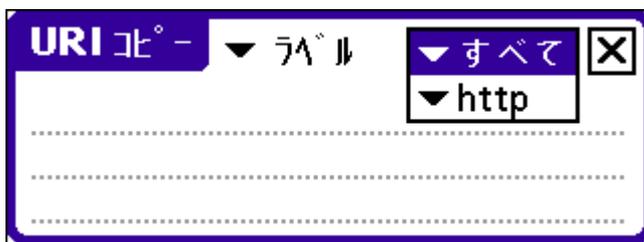
名称	コピー元	説明
フィールド	フォームのフィールド要素	対象のアプリケーションが現在表示中のフォームのフィールド要素の内容をコピーします。
リスト	フォームのリスト要素	対象のアプリケーションが現在表示中のフォームのリスト要素の内容をコピーします。 リストの内容がアプリケーション定義の表示関数で表示されている場合はコピーできません。
ラベル	フォームのラベル要素	対象のアプリケーションが現在表示中のフォームのラベル要素の内容をコピーします。
クリップ	クリップボード	クリップボードの内容をコピーします。 対象のアプリケーションに、目的の文字列をクリップボードにコピーする機能があるときは、クリップボードを経由して文字列をコピーできます。

コピー文字列選択ボタンをタップすると、指定した種類のコピー元にある文字列の一覧が表示されます。



コピー文字列選択ボタンをタッチしたとき、実際には次のような選択肢が表示され、「すべて」と「http」のどちらかを選ぶことができます。

「すべて」を選ぶと指定した種類のコピー元にあるすべての文字列の一覧が表示され、「http」を選ぶと「http://」という文字列を含む文字列だけの一覧が表示されます。



コピー文字列選択ボタンをタッチすると「すべて」がハイライトした状態になります。そのままペンを離すと「すべて」が選択され、タッチしたまま「http」のところまでペンをずらし、「http」がハイライトした状態でペンを離せば「http」が選択されます。

つまり、このボタンに対して普通にタップの動作を行えば、すべての文字列の一覧が表示されることになります。「http://」を含む文字列だけの一覧を表示したいときは、ボタンをタッチしたままペンをずらして離すという動作を行うことになります。

文字列の一覧でコピーしたい文字列をタップすると、その文字列が文字列編集フィールドに取り込まれます。文字列編集フィールドにすでに何らかの文字列が入力されている場合、その文字列は破棄されます(上書き)。



必要に応じて、文字列編集フィールド上で文字列を編集してください。

コピー実行ボタンをタップすると、文字列編集フィールドの文字列をメモ帳に書き込みます。書き込みが正常に行われると「コピー完了。」と表示されます。

画面移動ボタンをタップすると、画面の表示位置を変更できます。

コピー機能画面を起動した直後は、画面はアプリケーション表示領域の最下部に位置します。

画面移動ボタンをタップすると、画面が最下部にあるときは最上部に移動し、最上部にあるときは最下部に移動します。画面移動ボタンの表示は、画面が最下部にあるときは 、最上部にあるときは  になります。

コピー機能画面により隠されている箇所の表示を確認したいときに使用します。

閉じるボタンをタップすると、コピー機能を終了します。

英語表示画面

英語表示画面の例として、LifeDrive での画面を示します。

設定画面

Vorbis Player URI Copy Tool

Enabled

Trigger:

Hard key
▼ Hard key 1
Hold time: 3 second(s)

Menu command

名称の対応

- [有効] → [Enabled]
- [トリガー] → [Trigger]
- [ハード キー] → [Hard key]
- [保持する時間] → [Hold time]
- [メニュー コマンド] → [Menu command]

コピー機能画面

URI Copy ▼ Field [C] [↑] [X]

.....

.....

.....

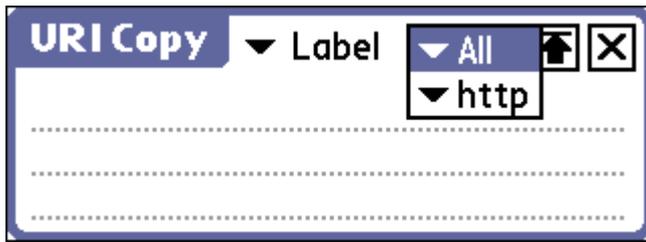
URI Copy ▼ Field [C] [↑] [X]

Field
List
Label
Clip

.....

.....

.....



名称の対応

[フィールド] → [Field]

[リスト] → [List]

[ラベル] → [Label]

[クリップ] → [Clip]

[すべて] → [All]